

[デザインコース]

将来の主な仕事：広告（CM、ポスター、新聞・雑誌・WEB広告、フライヤーなど）、C.I.（企業やショップをトータルにデザイン）、ブック・エディトリアル（本の装丁や編集）、サイン（標識、案内、指示、地図など）、パッケージ（商品の包装パッケージ、CDジャケットなど）、小型グラフィック（カレンダー、POP、販促物など）、イラストレーション、絵本、ゲーム、キャラクターデザイン、写真、WEB、映像（ミュージックビデオ、TV番組の企画・映像、映画）、乗り物（車、バイク、飛行機など）、家電・機器（電化製品、デジタル家電、OA機械など）、インテリア（家具、照明）、テキスタイル（染織、織物）、ファッション（服飾、装飾品）、クラフト（ジュエリー、家具、食器など）、雑貨（日常生活用品）、文房具、玩具（ゲーム、おもちゃなど）、バス・トイレタリー用品（住宅などの水回り空間や器具など）、医療器具・機器、スポーツ用品、テーブルウェア（食卓用器具）、ランドスケープ（都市空間、造園空間）、建造物、室内計画（住空間、商業空間）、舞台美術（演劇、TV番組・映画セットなど）、ディスプレイ（展示、陳列）、アート、教職など

自分自身の可能性を探求できる環境があります。

久保田 将平さん

愛知県立芸術大学 デザイン専攻4年
2018年度 基礎高1・2年専科 / 2019年度 デザイン・工芸平日専科
愛知総合工科高校出身



大
学
生
活
紹
介

私は幼い頃からものづくりが好きでした。進路をデザインに決めたのは高校2年生で、その頃から受験を見据えた対策を始めました。幼いときから学祭に通い、憧れと馴染みのあった愛知県立芸術大学のデザイン専攻に進学を決めました。この大学のデザイン専攻には、自分の「やりたい」を探求できるという魅力があります。課題のテーマが選択でき、またその成果物についても自分にあった表現ができます。活動の中で自分の表現に向き合って制作することで、自分だけの武器を増やし伸ばしていける。そんな自分自身の可能性をどこまでも探求できる環境があります。私らしさという点で、入学前と今とは比べられないほど大きな成長があったと感じています。

大学でこのような学びを得られたのも、高校時代たくさんの悩みと向き合えたからだと思います。周囲と自分を比べ、実力や受験に対する熱意の差に、ときには負けそうになり辛い時期も過ごしましたが、そうした日々があったからこそ、そこで負けなかった自分に自信が付き、向上心を持って大学生活を送ることができています。苦しい瞬間も多くありますが、ぜひ自信を持って頑張ってください。



1. 本能の赴くままの姿勢「Fetus」
2. 観葉植物ならぬ、観葉「ジョウロ」 「竹取」
3. 縦織マスク「SENSU」

将来の土台になると思います。

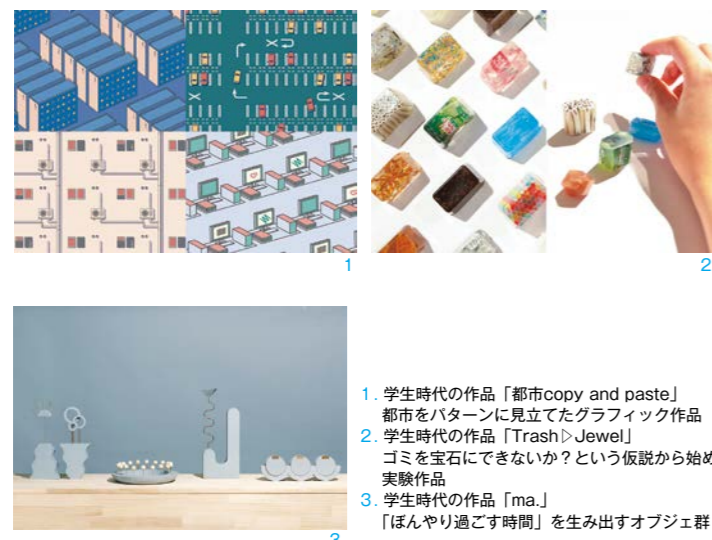
岡 真奈美さん

コクヨ株式会社
インハウスデザイナー

東京芸術大学 デザイン科卒業
2014年度 デザイン・工芸日曜専科 / 2015年度 デザイン・工芸本科
桑名高校出身



O
B
・
O
G
か
ら
の
メ
ッ
セ
ー
ジ



1. 学生時代の作品「都市copy and paste」
都市をパターンに見立てたグラフィック作品
2. 学生時代の作品「Trash▷Jewel」
ゴミを宝石にできないか?という仮説から始めた実験作品
3. 学生時代の作品「ma」
「ぼんやり過ごす時間」を生み出すオブジェ群

大学ではデザインのやり方や方法論を学ぶというよりは、いろんな人の作品はもちろん、考え方やものの見方、生き方を学んだというのに近かったです。

みんな自分の世界を持っていておもしろい人ばかりでした。その人たちに出会うためだけでも美大に行く価値はあると思います。

大学を卒業して社会に出て、ありがたいことにデザイナーとして仕事をしていますが、やっていることや考えていることの根本は受験生として課題に向き合っていた頃とあまり変わらないなと感じます。

今やっていることが必ず将来の土台になると思うので、受験勉強だと思わずに取り組んでみてください。

例えば参考作品を見るのも大事ですが、世にあるデザインや作品をたくさん見たり実際に体験する機会をもっと増やしてみてください。そして自分の好きだと思えるものを追求してください。

苦しい日々だとは思いますが、応援しています。

[工芸コース]

将来の主な仕事：陶芸家、ジュエリー作家、染織作家、漆芸作家、クラフト作家、造形作家、金属造形作家、七宝作家、鍍金家、造幣局員、プロダクトデザイナー、テキスタイルデザイナー、ジュエリーデザイナー、グラフィックデザイナー、クラフトデザイナー、インテリアデザイナー、七宝デザイナー、大学教授、文化財保存修復の研究者、デザイン事務所経営、ジュエリー会社経営、デザイン・印刷会社勤務、陶芸教室主宰、彫金教室主宰、鍍金教室主宰、教育研究機関の指導者など

自分にとっての財産。

望月 嶺さん

東京芸術大学 工芸科4年
2014-2015年度 基礎高1・2年専科 / 2016年度 デザイン・工芸平日専科 /
2017年度 デザイン・工芸本科
名古屋高校出身



大
学
生
活
紹
介

私は現在、東京芸術大学の工芸科彫金研究室に所属しています。工芸科では1年生からさまざまな素材に触れて自分に合う素材や技法を見つけ、2年生から各々の専攻に分かれ研究し学んでいきます。そして、工芸のみならず日本画や油画、彫刻などの実技授業や、美学や解剖学など座学でも自分の学びたいことを幅広く学べるのが良さだと思っています。

私は大学で彫金と出会い金属の見せるさまざまな表情に惹かれ、生き物と自然を主なモチーフとして作品を制作しています。芸大では工芸について先生方の制作論や素材への関わり方を教えていただけます。工芸は素材を一番深く知ることができる専攻だと思います。

素材の魅力を知り、感じ取りいかに作品にするかしっかり学びながら素材と触れ合っただけで学んでいける貴重な場所です。

私にとって予備校で過ごした時間はとても長く自分の大切な時間であったと思っています。

予備校に通う中で挫折や苦しい経験もあるかもしれませんが、それは後々の自分にとっての財産になります。大学で制作に向かうとききっとその経験が役に立って自分を助けて支えてくれます。自分にしかない良さを見つけてあげて大切にすることが自信につながると思います。自分のつくりたいものをつくれる楽しさを忘れず、どんなものにも興味を持って吸収してみてください。



1. 心象の鹿
2. 雪粉々
3. 月夜に蛇飾箱
4. 冬麗
5. 雪原に狼図指輪

表現において一番大切な基礎を学びました。

水谷 奈央さん

文化学園大学 金工研究室 助教
彫金作家
ジュエリーデザイナー

東京芸術大学 美術研究科工芸専攻彫金研究室修了
2007年度 基礎高1・2年専科 / 2008年度 デザイン・工芸平日専科 /
2009年度 デザイン・工芸本科
瑞陵高校出身



O
B
・
O
G
か
ら
の
メ
ッ
セ
ー
ジ

河合塾で過ごした2年半は私にとっての原点です。私は現在、大学で教員をしながら作家活動をしています。好きなことを仕事にすることは大変な道のりです。自分の弱さと向き合って、受験を乗り越えたことが自信になり、今の私を支えています。ものの捉え方や考え方、感じ方など、表現において一番大切な基礎を河合塾時代に学びました。現在の仕事においても迷い悩んでしまったときは、受験期に先生方に教えていただいたことや当時の気持ちを思い出し、初心にかえることがあります。

今思い返してみると、10代の感受性豊かな時期の一つのことに没頭できたことは、とても贅沢なかけがえのない時間であり、そんな環境に身をおけたことに感謝しています。受験では自分に向き合い、自分の強みに気づき、力を出し切ることが大切です。これは大学受験だけでなく、その先の人生においても必要なことです。

投げ出したくなったり、描くことが嫌いなったりすることがあると思います。受験生の皆さんは今とても辛いと思いますが、自分の夢に向かって悔いのないように乗り越えてほしいです。応援しています。



1. 幸せの結晶 卒業制作 2014
2. 機微を綴る 2019
3. 記憶のかけら 2022
4. フェルメール展公式グッズ 制作 2022